

ワクチンの副作用にどう対処しているか

小生の個人的見解

NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会／育良クリニック

園部 友良

日本はV P Dによる被害の厳しい現実やワクチンのメリットであるV P Dの患者数の減少などはあまりマスコミでは報道されない。報道されない原因の一つが、日本では接種後の有害事象の総てが、マスコミ等で真の副作用ととらえられているためとも考えられる。そのために良いワクチンがありながら、以前より減少はしているが、現在でも未だに多くの子どもがV P D（ワクチンで防げる病気）にかかって死亡したり、重症の合併症で悩んでいる。

総てのもの、リスクの無いものはない。しかし、予防接種ほど、低開発国の栄養状態の良くない子どもを含めて世界中の子ども使用されている“薬剤”はない。そして、その上に詳細に調査されており、その安全性が極めて高いことが判明している。そのために、米国では原則ではであるが、保育所や小学校の入所・入学時にはワクチン接種を義務づけている位である。

今回、あくまでも小生の個人的見解であるが、ワクチンの安全性について、軽度から重いものまでの副作用問題とその対処法について、時間は限ら

れるが、述べる。具体的には、先ず日本の母親達の不安と最近の母親達の傾向などにつき述べる。次に、日本でのマスコミ等の誤解の最大の原因は厚労省の「予防接種後の副反応（副作用）報告書」であるが、これは有害事象報告書であること、真の副作用と言うための条件、接種後のアデム（急性散在性脳脊髄炎）などの考え方、プラセボを用いた治験から言えることなどについて述べる。次に、接種後の発熱に対する対処法、局所反応に関しては皮内、皮下、筋肉内接種の免疫学的、解剖学的等の差や不活化ワクチンは筋肉内接種が世界の常識であるのに、日本だけが基本的に認可されていない現実なども述べる。また国産ムンプスワクチンによる無菌性髄膜炎の頻度と対処法、B C G接種とP I D（原発性免疫不全症）との関係、ロタワクチンと腸重積の関係についても述べる。最後に、H P Vワクチンに限らず経験される失神やアナフィラキシーショックの対処法、最後に現在問題にされているH P Vワクチン接種後の慢性疼痛とその対処法についてふれる。